

胃がん・大腸がんについて

胃がん



胃がんとは

胃がんは、胃壁の内側にある粘膜に発生します。

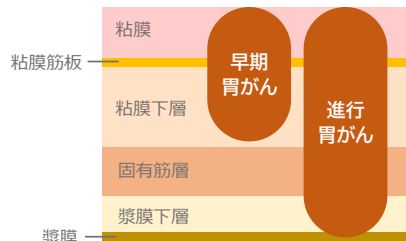
内側の粘膜から徐々に粘膜下層、固有筋層、漿膜へと外側に向かってがんが広がっていきます。(図1) がん細胞が、粘膜または粘膜下層までにとどまっているものを「早期胃がん」といい、筋層より深く達したものを「進行胃がん」といいます。

胃がんの罹患率は男性で1位となっており、全体でも大腸がんに次いで2位となっています。

50歳ごろから増加して、80歳代でピークを迎えます。

男性はおよそ9人に1人、女性はおよそ19人に1人が、一生のうちに胃がんと診断されています。

(図1)



胃がんの要因

- ・ヘリコバクターピロリ菌の感染
- ・喫煙
- ・多量の塩分摂取
- ・多量の飲酒
- ・野菜や果物の摂取不足

胃がんの症状

早い段階では自覚症状がほとんどなく、かなり進行しても症状がない場合があります。

- ・胃（みぞおち）の痛み
- ・吐き気
- ・胃の不快感・違和感
- ・貧血
- ・胸やけ
- ・黒い便

胃がん検診を受けましょう

胃がん検診で早期発見し、早期に治療をすることにより完治も可能です。

胃がんの初期には全く自覚症状が見られないケースも多いため、検診での定期チェックが重要です。

胃の痛み、不快感、出血などが発見のきっかけとなる方もいますので、気になる症状がある場合はすぐに医療機関を受診しましょう。

大腸がん



大腸がんとは

大腸がんは、大腸（結腸・直腸・肛門）に発生するがんです。(図2)

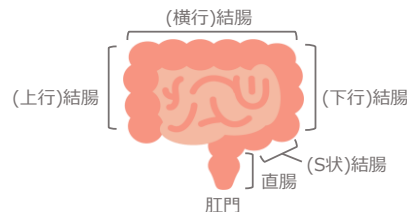
この20年で大腸がんによる死亡数は1.5倍に拡大していて、生活習慣の欧米化（高脂肪・低繊維食）が関与していると考えられています。

30代前半から増加して、高齢になるほど多くなります。

男性はおよそ11人に1人、女性はおよそ13人に1人が、一生のうちに大腸がんを診断されています。

大腸がんは女性のがんによる死亡数の第1位です。

(図2)



大腸がんの原因

- ・運動不足
- ・赤肉（牛、豚、羊など）や加工肉（ベーコン、ハム、ソーセージなど）の過度な摂取
- ・野菜や果物の摂取不足
- ・肥満
- ・飲酒
- ・大腸がんの家族歴

大腸がんの症状

早期の段階では自覚症状はほとんどなく、進行すると症状が出るが多くなります。

- ・ 血便（便に血が混じる）
- ・ 下血（腸からの出血により赤または赤黒い便が出る、便の表面に血液が付着する）
- ・ 下痢と便秘の繰り返し
- ・ 便が細い
- ・ 残便感
- ・ おなかが張る
- ・ 腹痛
- ・ 貧血
- ・ 体重減少

大腸がん検診を受けましょう

大腸がんは、早期であれば完治が90%以上と、他のがんと比較して治癒率が高いといわれています。

しかし、早期の大腸がんはほとんど自覚症状がないので、定期的に検診を受けることが大切です。

精密検査が必要な場合には、必ず大腸内視鏡検査を受けるようにしましょう。